

論文の要旨

氏名 聶 奎全

論文題目 馬英九政権に於ける対中政策に関する研究
—台湾の「現状維持」指導方針に基づく大陸政策の転換を中心に—

論文の要旨

本論文は、台湾の馬英九中国国民党政権の8年間に於ける中国大陸に対する「大陸政策」の策定と実施の背景、内容、特徴、政策評価、影響などを研究対象とした。具体的には、馬英九政権に先立つ台湾の戦後4代にわたる歴代政権の大陸政策を分析した上で、馬英九政権の大陸政策、即ち、「現状維持」政策の指導方針とそれに基づく外交、軍事、経済政策、その国際関係、相互信頼醸成メカニズムなどについて分析、検討した。

本論文の特徴と独創性については、以下の通りである。

第1に、現在、日本に於ける大陸と台湾の兩岸関係の研究については、歴史、政治関係などの分野で先行研究が多いが、本研究は、最近の馬英九政権の大陸政策に焦点を絞り、台湾当局の大陸への認識と関連政策を分析、検討した。その際、台湾の戦後の4代にわたる歴代政権を含めた「大陸政策」と外交、軍事、経済政策などの分野別政策を学術的に分析することに努めた総合的な台湾研究である。

第2に、本論文は、馬英九政権の「大陸政策」と、大陸との関係である「兩岸関係」問題の内容、態様と解決方法を研究の主要な対象として取り上げ、同政権の大陸政策と兩岸政策という連動性の関係を分析、検討した。台湾の中国国民党の政治理念に基づく主要な政策を分析し、また、台湾に於ける兩岸関係についての「1つの中国」をめぐる「2つの道」（一つの中国を前提として、現状を維持する政策により緊密な兩岸関係を構築し、将来の統一のため兩岸対等の交渉を模索する路線と、台湾の独立を将来的に志向するという路線）を比較検討し、兩岸の統一政策という非常に重要な問題を考察した。

第3に、馬英九政権期に於ける台湾の外交、軍事、経済政策などからなる「大陸政策」や台湾と大陸の間の「兩岸関係」などについての本格的な研究の蓄積が少なく、その研究の空白を補填できた。とりわけ、本論文は、台湾の大陸に対する防衛の戦略

目標、軍事態勢などの問題を詳細に解明した。

第4に、現在、台湾と大陸で公開されている第1次資料を可能な限り収集し、論文作成に使用した。このことによって、先行研究に比較して、研究の基礎となる論拠の信頼性を高めている。

第5に、同時性がある研究である。本論文は、馬英九政権の2008年から2016年の時期の兩岸関係を研究対象とし、2016年5月の馬英九政権の退陣後に、馬英九政権の大陸政策を総合的にまとめ、その研究成果を早期に公開しようとする研究である。

各章の内容は、次のとおりである。第1章では、馬英九政権以前の台湾に於ける4代にわたる歴代政権の「大陸政策」の内容、位置づけ、変遷及びその比較検討について分析、検討した。第2章では、馬英九政権に於ける「現状維持」指導思想の確立の背景、内容、影響について分析、検討した。第3章から第5章にかけては、馬英九政権に於ける大陸政策の中で、それぞれ、外交政策、軍事政策、経済政策について分析、検討した。第6章では、馬英九政権に於ける「大陸政策」の決定に影響をもたらした内外の要因を分析、検討した。第7章では、兩岸の相互信頼醸成メカニズムの構築を研究対象とし、兩岸間の平和協議の交渉と政治対話の発展という問題を考察した。

本論文の研究の成果による馬英九政権に於ける「大陸政策」の特徴については、次の点が挙げられる。

第1に、馬英九政権が「九二共識・一中各表」を認めることによって、兩岸間の交流の円滑で安定的な政治的基盤を構築することができた。馬英九国民党政権の大陸政策は、大陸側にとって最も望ましい理想的な政策ではないが、民主進歩党が主張した政策に比較してより受け入れ易い政策と見られ、兩岸の協力関係が漸進的に発展することになったことを明らかにした。第2に、馬英九政権の大陸政策に於いて、大陸との協力関係という点から考えれば、後期（第2期）が前期（第1期）に比べ消極的な態度が見られた。その背景には、台湾の民意が兩岸の急接近への不安を抱いたことや野党である民主進歩党による牽制などの要因によって、馬英九が兩岸連携に対する政策立案とその実施を自制したことを明らかにした。第3に、馬英九政権の大陸政策は、「中華民國憲法」と「中国国民党綱領」に含まれた方針に基づいて立案したものである。馬英九の「中間路線」は、自身の「国家観」を反映したものであり、馬英九個人の認識と政策主張が大陸政策への策定に対して強い影響力があることを明らかにした。第4に、馬英九政権は、その大陸政策によって「現状維持」的な兩岸情勢を実現するという目標を取り上げ、兩岸関係では「ウィン・ウィン」的な効果を獲得する一方で、台湾の中では民主進歩党と中国国民党が主張する政策の折衷によって、いわば「中間路線」による政策を追求しようとしたことを明らかにした。第5に、馬英九政権は、通商的側面を重視する「実利主義」によって、より柔軟な方法を取ることで兩岸交流の障碍を克服しようとする努力、将来に於ける兩岸交流の「馬英九モデル」を構築した。その方法をとることで、馬英九政権が兩岸の交流によって何十年間も中断され

た交流を回復させたことは、大陸と台湾の間の歴史の中で大きな意義があった。その成果により、兩岸間のより積極的な交流は兩岸の相互理解を促進でき、兩岸間の平和と安全、相互の発展に資することに対して大きな貢献を行ったことを明確にした。

本論文の研究で得た知見については、次の点が挙げられる。第1に、馬英九政権の大陸政策は、大陸との融合ではなく、「実利主義」に基づいて、台湾の安全と経済発展のために、限度付きの協力によって、「ウィン・ウィン関係」を達成するということである。馬英九政権にとって、台湾海峡を安定化させることは、兩岸民衆にとって有益であると認識され、しかも、大陸の台湾に対する外交・国際関係面、経済面、軍事面などに対して影響力が増えている現状を踏まえて、敵視政策より、協力することの方が賢明である外交政策と考えられた。換言すれば、馬英九政権の大陸政策は、兩岸双方のニーズを満足させる「協力パターン」を提示した。馬英九による「中間路線」は、中国国民党への影響、特に、中国国民党綱領と関連の政策方針に対して「馬英九モデル」とも言えるモデルになったと言える。第2に、馬英九政権は、その「現状維持」指導方針に基づき、8年間の実践による兩岸関係の安定と平和な発展という目標を達成したことに鑑みれば、成功した指導方針と考えられた。現段階の兩岸にとって、「現状維持」的な局面を構築することは、兩岸の利益を満たすだけではなく、東アジア地域や国際社会の平和と安定にとって大きな貢献があったと考えられた。第3に、馬英九政権は、中華民国の国益のため、中国共産党と協力したが、兩岸関係について、「平和協定」の調印と兩岸の統一交渉という2つの最も重要な政治問題に触れていない。この原因について、馬英九は「条件不足」と回答したが、その意味について、兩岸の相互理解と相互信頼関係がまだ不足していたという原因を指摘できる。第4に、馬英九政権の8年間に於いて、特に「大陸政策」の策定については、馬英九の個人的影響力が強い。馬英九は、中華民国の行政院と中国国民党に対して十分な影響力があると考えられ、「大陸政策」の策定が指導者である馬英九の理念を反映させたと思われる。馬英九が主張した「中間路線」の「大陸政策」は、馬英九の政治理念による「反台湾独立」を堅持し、「一つの中国」という理念や「自分が中国人である」ことに対してアイデンティティがあるという政策上の反映と見られた。第5に、馬英九の大陸側に対する態度について、馬英九個人は、「共産主義」、「独裁統治」、「威権体制」に対する不信感を抱えていた。馬英九は、台湾が「中国」を構成する一部分と考え、中国統一に期待したいが、どの政策による統一が最適なのが問題であった。「一国両制度」の立案は、共産主義国家としての大陸が台湾・香港・澳門を統一する問題の解決のために立案した制度であった。しかし、馬英九政権は、中国共産党と「一国両制度」に対しての信頼が十分ではない客観的状況の下では、大陸が主張した「一国両制度」による統一政策を認めないという理由で、兩岸の統一交渉が任期内に進まなかった。第6に、馬英九個人の認識によれば、台湾と大陸の統一は大陸側の将来の発展状況次第である。仮に、大陸側が台湾民衆の望むような「民主制度」を構築し、国家の

総合実力がさらに充実すれば、兩岸交渉と投票による平和統一が実現する可能性が高いと考えられた。馬英九政権に於ける「現状維持」を基本とする大陸政策の実践は、将来の台湾の政権政党に対して、兩岸関係の政策モデルになった。第7に、馬英九政権の大陸政策は大陸重視路線が見られるが、台湾の利益を無視する点は見られない。馬英九政権は、台湾の利益を拡大するため、大陸に友好的な姿勢を取ったと考えられ、大陸に対する妥協的な政策を取る一方で、台湾軽視の姿勢は見られなかった。

馬英九政権の「現状維持」政策を前提とした大陸政策に対する評価については、「九二共識・一中各表」による兩岸制度化協議の基礎と「求同存異・共創双赢」の思考に基づく兩岸体制の「ウィン・ウィン関係」を構築しつつ、現実的で実現性が高い有効的な政策であると考察され、さらに現在の兩岸関係に於ける平和発展の状態を維持するための堅実な効果と功績をもたらす政策であると考えられる。このような政策に基づき、既存の解決困難な課題の解決に対しては「先経後政・先急後緩・先易後難」という方針に従って棚上げし、政治的対等関係を現状維持のままにしておく一方で、各分野の交流を緊密化し、兩岸間に於ける安定した信頼関係を構築するという目的を達成できたのである。